

北陸中日新聞  
2016年12月19日

# 宇宙観測 南極が最適

## 筑波大教授ら 調査様子など紹介

南極での天文観測の意義を考える講演会「南極からさぐる宇宙」が十八日、金沢市石引の県立生涯学習センターであった。筑波大の中井直正教授（天文学）らが四十人の来場者を前に、南極での調査の様子や電波望遠鏡の設置計画について語った。

中井教授は、銀河誕生の謎の解明のためには、地球から遠方にある初期の銀河

が放つ電磁波を調べる電波観測が有効だと説明。水蒸気が極めて少なく、晴天率が高い南極が最適の観測地点だと話した。

研究チームで南極に電波望遠鏡を設置する計画を進めているが、コストが高く難航しているとし、「予算さえあれば、日本は世界に先駆け、これまで見えなかった生まれだての銀河の姿を見られるはず」と語っ

南極での天文観測の利点  
について学ぶ来場者＝県  
立生涯学習センターで



た。そのほか、南極の越冬隊に参加した金沢大の香川博之講師（機械工学）が南極の天候や地形、昭和基地周辺での調査時の様子を紹介した。（太田理英子）